



マネージャの削除

この章では、Unified Communications Manager データベースおよび LDAP ディレクトリからマネージャをそのマネージャ-アシスタント関連付けと共に削除する方法について説明します。削除する既存のレコードを検索するには、クエリ検索またはカスタム ファイルを使用できます。

- [Cisco Unified Communications Manager からのマネージャの削除 \(1 ページ\)](#)
- [マネージャの削除関連のトピック \(4 ページ\)](#)

Cisco Unified Communications Manager からのマネージャの削除

Unified CM Assistant マネージャとすべてのマネージャ - アシスタント関連付けを Unified Communications Manager データベースと LDAP ディレクトリから削除すると、Cisco Unified Communications Manager はこのマネージャの情報をユーザーとしてディレクトリで維持します。たとえば、ユーザ ID が `rmartinez` のマネージャに、ユーザ ID が `dbell` と `jkent` の 2 名のアシスタントが関連付けられている場合、この両方のアシスタントと `rmartinez` の関連付けを解除するには、Cisco Unified Communications Manager データベースから `rmartinez` をマネージャとして削除します。`rmartinez` はその後もユーザとしてディレクトリに表示されます。

削除する既存のレコードを検索するには、クエリ検索またはカスタム ファイルを使用できます。

クエリを使用したマネージャ アソシエーションの削除

この手順を使用して、Cisco Unified Communications Manager ディレクトリでアシスタントとのアソシエーションからマネージャを削除できます。

手順

ステップ 1 [BAT管理 (BAT Administration)] > [マネージャ/アシスタント (Managers/Assistants)] > [マネージャの削除 (Delete Managers)] > [クエリ (Query)] の順に選択します。

ステップ 2 最初の [マネージャの検索 (Find Managers where)] ドロップダウン リスト ボックスから、次の条件のいずれかを選択します。

- [ユーザID (User ID)]
- [名 (First Name)]
- [ミドルネーム (Middle Name)]
- [姓 (Last Name)]
- [部署名 (Department)]

2 番目の [マネージャの検索 (Find Managers where)] ドロップダウン リスト ボックスから、次の条件のいずれかを選択します。

- ~で始まる
- ~を含む
- 次の文字列と完全に一致する
- 次の文字列で終わる
- 空である
- ~が空ではない

ステップ 3 必要に応じて、適切な検索テキストを指定し、[検索 (Find)] をクリックします。

ヒント データベースに登録されているすべてのマネージャを検索するには、検索テキストを何も入力せずに [検索 (Find)] をクリックします。

- a) 複数の部署からマネージャを選択するには、このフィールドに複数の部署を入力します。たとえば、部署 12 と部署 24 からマネージャを選択するには、操作を 2 回行う代わりに、3 番目のボックスに「12, 24」と入力します。
- b) さらにクエリを定義して複数のフィルタを追加するには、[絞り込み (Search Within Results)] チェックボックスをオンにして、ドロップダウン ボックスから [AND] または [OR] を選択し、[ステップ 2 \(2 ページ\)](#) と [ステップ 3 \(2 ページ\)](#) を繰り返します。

検出されたマネージャのリストが次の分類で表示されます。

- [ユーザID (User ID)]
- [名 (First Name)]
- [ミドルネーム (Middle Name)]
- [姓 (Last Name)]
- [部署名 (Department)]

ステップ 4 [ジョブ情報 (Job Information)] 領域に、ジョブの説明を入力します。

ステップ 5 削除方法を選択します。次のいずれかを実行します。

- a) すぐにマネージャを削除する場合は、[今すぐ実行 (Run Immediately)] をクリックします。
- b) 後でマネージャを削除する場合は、[後で実行 (Run Later)] をクリックします。

ステップ 6 選択したマネージャを削除するためのジョブを作成するには、[送信 (Submit)] をクリックします。

[ジョブの設定 (Job Configuration)] ウィンドウを使用して、このジョブをスケジュールまたはアクティブ化します。

関連トピック

[BAT ログ ファイル](#)

[スケジュールしたジョブの管理](#)

[マネージャの削除関連のトピック \(4 ページ\)](#)

カスタムファイルを使用したマネージャ アソシエーションの削除

テキストエディタを使って作成したカスタムファイルを使用して、Cisco Unified Communications Manager データベースからマネージャ アソシエーションを削除できます。カスタムファイルを使用して、削除するマネージャ アソシエーションを特定します。



注目 bat.xlt で作成された挿入トランザクションまたはエクスポートトランザクションのファイルを削除トランザクションに使用しないでください。代わりに、削除する必要があるマネージャ アソシエーション レコードの詳細を含むカスタムファイルを作成する必要があります。削除トランザクションにはこのファイルだけを使用してください。

始める前に

1. 削除するマネージャのユーザ ID を列挙したカスタム テキストベースの CSV データ ファイルを作成します。各ユーザ ID を必ず別々の行に配置してください。



(注) このカスタム削除 CSV データ ファイルには見出しが不要で、マネージャ アソシエーション ID の値を入力できます。

2. カスタムファイルを Cisco Unified Communications Manager サーバの最初のノードにアップロードします。

手順

ステップ 1 [BAT管理 (BAT Administration)] > [マネージャ/アシスタント (Managers/Assistants)] > [マネージャの削除 (Delete Managers)] > [カスタムファイル (Custom File)] の順に選択します。

- ステップ 2** [マネージャの選択 (Select managers where)] フィールドは、識別子 [ユーザID (User ID)] のままにします。
- ステップ 3** 2 番目のフィールドでは、[カスタムファイル (Custom File)] ドロップダウンリストボックスから、このトランザクション用に作成したカスタム ファイルの名前を選択します。
- ステップ 4** [検索 (Find)] をクリックします。
検出されたマネージャのリストが表示されます。
- ステップ 5** [ジョブ情報 (Job Information)] 領域に、ジョブの説明を入力します。
- ステップ 6** 削除方法を選択します。次のいずれかを実行します。
- すぐにマネージャを削除する場合は、[今すぐ実行 (Run Immediately)] をクリックします。
 - 後でマネージャを削除する場合は [後で実行 (Run Later)] をクリックします。
- ステップ 7** 選択したマネージャを削除するためのジョブを作成するには [送信 (Submit)] をクリックします。
[ジョブの設定 (Job Configuration)] ウィンドウを使用して、このジョブをスケジュールまたはアクティブ化します。

関連トピック

- [BAT ログ ファイル](#)
- [スケジュールしたジョブの管理](#)
- [サーバへのファイルのアップロード](#)

マネージャの削除関連のトピック

- [Cisco Unified Communications Manager からの特定のマネージャ/アシスタント アソシエーションの削除](#)
- [Cisco Unified Communications Manager からのアシスタントの削除](#)
- [BAT ログ ファイル](#)
- [サーバへのファイルのアップロード](#)
- [スケジュールしたジョブの管理](#)

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。